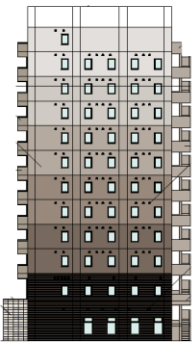
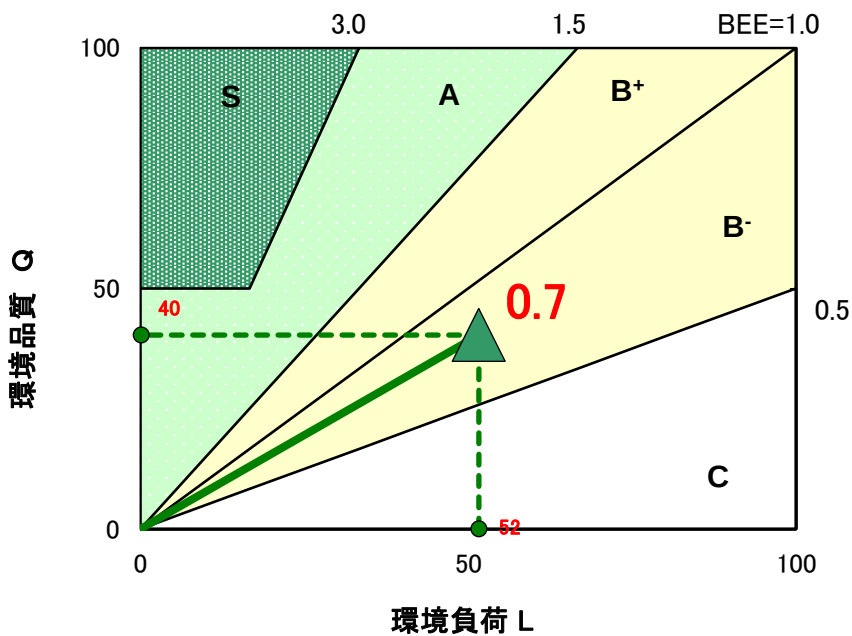


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称)ビジネスホテル熊本駅前新築	階数	地上12F	 .てください。
建設地	熊本県熊本市西区春日2丁目718-1	構造	RC造	
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	200 人	
気候区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	ホテル、	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2021年7月 予定	評価の実施日	2020年3月16日	
敷地面積	405 m ²	作成者	鈴木充広	
建築面積	212 m ²	確認日	2020年3月16日	
延床面積	2,091 m ²	確認者	鈴木充広	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.7

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

86%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

62

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

66.1

56.2

52.5

70.5

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

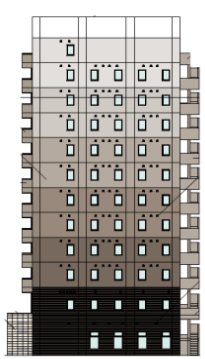
Page : 1/6

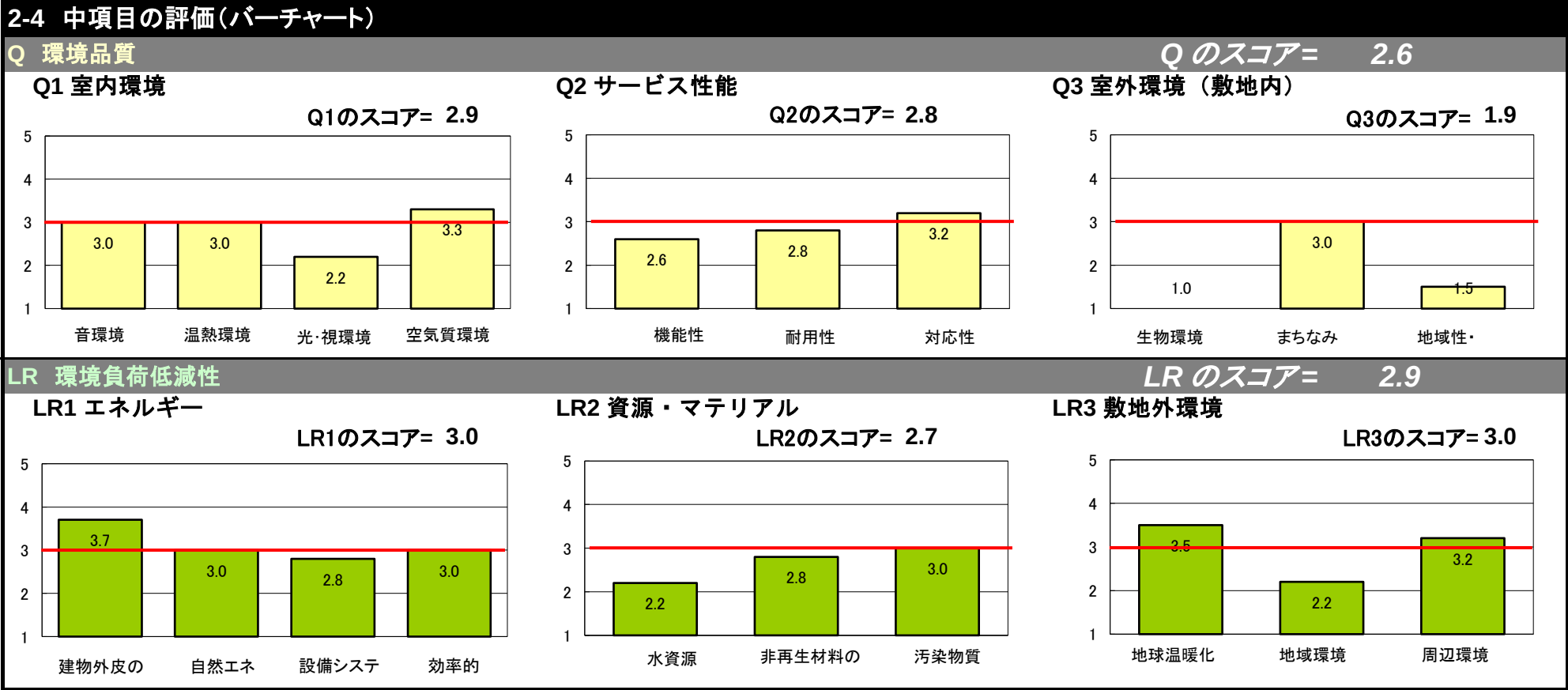
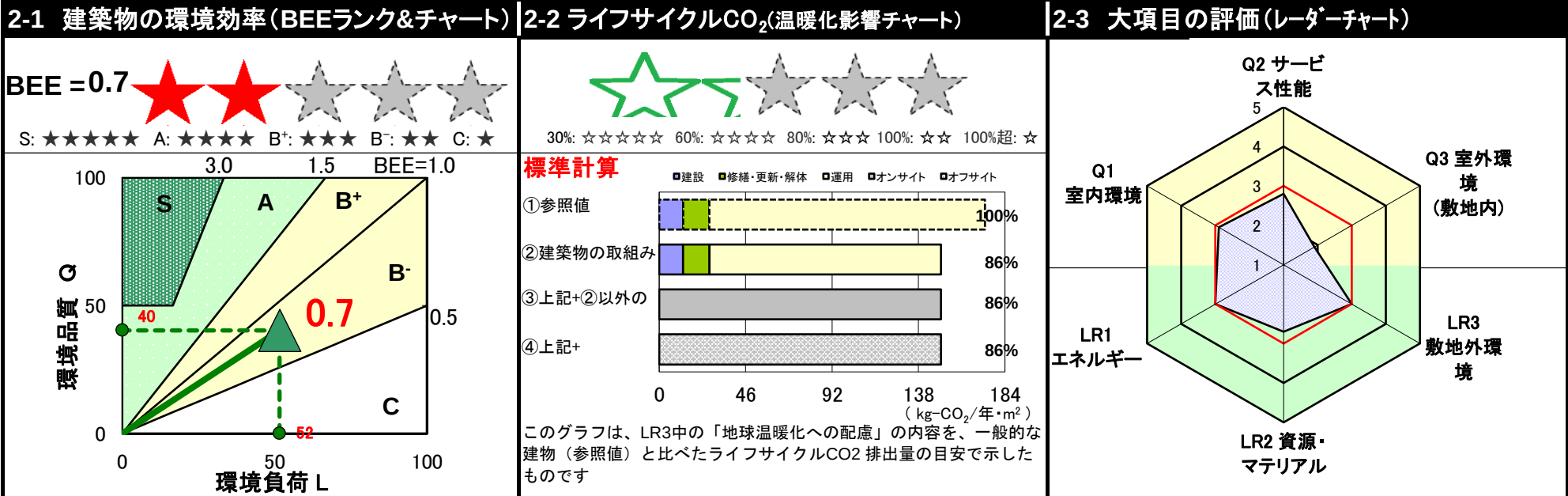
Sheet : 1/5

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)ビジネスホテル熊本駅前新築	階数		
建設地	熊本県熊本市西区春日2丁目718-1	構造		
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員		
地域区分	7地域	年間使用時間		
建物用途	ホテル	評価の段階		
竣工年	2021年7月 予定	評価の実施日		
敷地面積	405 m ²	作成者		
建築面積	212 m ²	確認日	2020年3月16日	
延床面積	2,091 m ²	確認者		
			鈴木充広	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)ビジネスホテル熊本駅前新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.6	
Q1 室内環境					0.40		-	2.9	
1 音環境				3.4	0.15	2.8	1.00	3.0	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音				5.0	0.40	3.6	0.40		
1 開口部遮音性能		T-2以上		5.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境				3.0	0.35	3.0	1.00	3.0	
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50		
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	0.43		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				2.4	0.25	2.0	1.00	2.2	
3.1 昼光利用				3.0	0.30	1.8	0.30		
1 昼光率				3.0	0.60	1.0	0.60		
2 方位別開口				-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				1.0	0.30	1.0	0.30		
1 昼光制御				1.0	1.00	1.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				3.1	0.25	3.6	1.00	3.3	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		告示対象外の建材及びF☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用。		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.30	3.0	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能				3.0	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				1.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-		
2 喫煙の制御				1.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.8	
1 機能性				2.8	0.40	2.4	1.00	2.6	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	2.0	0.60		
1 広さ・収納性				3.0	-	1.0	0.50		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	0.50		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40		
1 広さ感・景観				3.0	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-		
3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理				2.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.8	0.30	-	-	2.8	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性				2.6	0.30	3.8	1.00	3.2		
	3.1 空間のゆとり		階高:3m 壁長さ比率:0.232	-	-	4.6	0.50			
	1	階高のゆとり		3.0	-	5.0	0.60			
	2	空間の形状・自由さ		3.0	-	4.0	0.40			
	3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50			
	3.3 設備の更新性			2.6	1.00	-	-			
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-			
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-			
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-			
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-			
	5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-		1.9	
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0			
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0			
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	-	1.5			
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			1.0	0.50	-	-				
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-				
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	2.9			
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.0			
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.92	3.7	0.20	-	3.7			
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	3.0			
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m] = 0.84	2.8	0.50	-	2.8			
4 効率的運用				3.0	0.20	-	3.0			
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-			
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-			
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-			
	集合住宅の評価			-	-	-	-			
	4.1	モニタリング		3.0	-	-	-			
	4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-			
	LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-		2.7	
	1 水資源保護			2.2	0.20	-	-		2.2	
	1.1 節水			1.0	0.40	-	-			
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-			
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-			
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8			
	2.1 材料使用量の削減		ー ビニル系床材	2.0	0.10	-	-			
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-			
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-			
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-			
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-			
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0			
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-			
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-			
	1	消火剤		-	-	-	-			
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-			
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-			
	LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-		3.0	
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率86%	3.5	0.33	-	3.5			
2 地域環境への配慮			2.2	0.33	-	-	2.2			
	2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-			
	2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-			
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.25	-	-			
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-			
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			
	3	交通負荷抑制		1.0	0.25	-	-			
	4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-			
	3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-		3.2	
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-			
	1	騒音		3.0	1.00	-	-			
	2	振動		-	-	-	-			
	3	悪臭		-	-	-	-			
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-			
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-			
	2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-			
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-			
	3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-			
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		5.0	0.70	-	-			
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-			

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・建物全体にLEDを採用

Q1 室内環境

- ・空気質汚染を回避するための対策計画
- ・遮音対策

Q2 サービス性能

- ・空間の自由さを考慮した計画

Q3 室外環境（敷地内）

- ・植栽の設置

LR1 エネルギー

- ・省エネ基準適合

LR2 資源・マテリアル

- ・一般的な配慮にとどまる

LR3 敷地外環境

- ・ライフサイクルCO2排出率を86%に抑えられている

その他

特になし

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

(仮称)ビジネスホテル熊本駅前新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		62
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				66.1	0.40	26.44
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	1.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.7	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.8	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	1.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				56.2	0.20	11.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	1.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				52.5	0.20	10.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				70.5	0.20	14.10
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数